

令和五年高知県支部「秋の俳句大会」募集句成績

日時 令和五年十月二十二日(日)

於 高知共済会館三階

大会賞

妊りし牛に大きな扇風機 四万十市 亀井雉子男

遠洋の夫への祈り星祭 室戸市 安岡みさき

水澄むや吾もただよふもののうち 高知市 山本 敏子

秀逸

新涼や白き布縫ふ巫女溜り 四万十市 安西 佐和

静かなる長の差配の夜焚舟 高知市 近藤 勝

今朝刈りし草の匂ひや施餓鬼棚 土佐清水市 山崎紀美子

文書かな書を読まな秋深みゆく 香美市 岡崎 桜雲

刃物打つ土まで焦げる残暑かな 高知市 石坂陽太郎

佳作

嫁の座も楽しかりしよ秋茄子 高知市 田中 杏

鮎漁師地下足袋干してありにけり 四万十市 下村 夏江

掃苔や俄作りの草束子 四万十市 藤原佳代子

軍鶏小屋に麻布掛けし残暑かな いの町 川添 弘幸

逢はぬ人もう逢へぬ人鰯雲 宿毛市 宮尾 直美

天の河四万十川行きの一輛車 四万十町 中平キリン

何無何無と百足虫を踏みし女かな 四万十市 亀井しげみ

白南風や父は居まさず父の椅子 黒潮町 宮川 恵子

補欠にも背番号あり雲の峰 高知市 橋本 絹子

秋灯に集ふ素性は違へども 高知市 田村 土木

カルストに海の記憶や天高し 宇和島市 今城 真人

妹も弟も来よ門火燃ゆ 高知市 松林 朝蒼

風はもう秋なり橋を渡るなり 高知市 東谷 晴男

落ち葉掃く児らに会釈をして通る 高知市 郵杲

茄子にやる水も生活も沢の水 西予市 大崎 康代

角谷 昌子特選

新涼や白き布縫ふ巫女溜り

四万十市

安西 佐和

軍鶏小屋に麻布掛けし残暑かな

いの町

川添 弘幸

天の河四万十川行きの一輛車

四万十町

中平キリン

味元 昭次特選

水澄むや吾もただようものうち

高知市

山本 敏子

髪洗ふ大蛇塚より戻り来て

四万十町

藤原佳代子

鯉節煮釜土州清水の棹杵

四万十町

中平キリン

山本 呆齋特選

遠洋の夫への祈り星祭

室戸市

安岡みさき

妊りし牛に大きな扇風機

四万十市

亀井雉子男

透きとほる風は空色鯉飛べり

高知市

浜田 節

田村 乙女特選

土佐錦てふ酒米や豊の秋

四万十町

藤原佳代子

母よりも生きてこの世の曼珠沙華

高知市

山本 敏子

さわやかや杖を持たずも歩けさう

高知市

前川 恵女

岡崎 桜雲特選

白南風や父は居まさず父の椅子

黒潮町

宮川 恵子

嫁の座も楽しかりしよ秋茄子

高知市

田中 杏

逢はぬ人もう逢へぬ人鰯雲

宿毛市

宮尾 直美

石坂 陽太郎特選

水澄むや吾もただよふものうち

高知市

山本 敏子

満を持し怒涛の如く踊り来る

佐川町

浜田 博子

終活も断捨離もせず黴臭く

高知市

今田 幹雄

乾 真紀子特選

カルストに海の記憶や天高し

宇和島市

今城 真人

妹も弟も来よ門火燃ゆ

高知市

松林 朝蒼

文書かな書を読まな秋深みゆく

香美市

岡崎 桜雲

植田紀子特選

静かなる長の差配の夜焚舟

高知市

近藤 勝

掃苔や俄作りの草束子

四万十町

藤原佳代子

文書かな書を読まな秋深みゆく

香美市

岡崎 桜雲

松林 朝蒼特選

遠洋の夫への祈り星祭

室戸市

安岡みさき

今朝刈りし草の匂ひや施餓鬼棚

土佐清水市

山崎紀美子

土佐祭すめば秋種蒔き始む

高知市

小島久美子

亀井雉子男特選

味噌小屋の樽の塩噴く残暑かな

四万十市

安西 佐和

八月の海八月の海の底

宇和島市

今城 真人

貧乏に泣き笑ひあり稲の花

いの町

川添 弘幸

## 高知県支部「秋の俳句大会」当日句成績

大会賞

水澄みて言葉やさしくなりにけり 四万十市 亀井しげみ

日曜の歩幅であるく秋日和 佐川町 味元 昭次

はちきんの厚き手のひら豊の秋 高知市 近藤 勝

秀逸

齒の神に供へてありし熟柿かな 四万十市 亀井雉子男

鬼の子の身の上話聞いてをり 高知市 野田美佐子

百歳の聞き捨て上手ぬくめ酒 四万十町 藤原佳代子

吊し柿我が家の色となりにけり 高知市 石坂陽太郎

片脚はふる里あたり秋の虹 香南市 乾 真紀子

角谷昌子特選

内海の水脈のあきらか鷹渡る 高知市 松林 朝蒼

野路菊や土佐の海光余すなく 高知市 近藤 勝

月影の鼓楼の礎石地虫鳴く いの町 川添 弘幸

高知県俳句連盟会長 味元昭次特選

恋文の封を切りたる花野かな 香美市 野村 里史

齒の神に供へてありし熟柿かな 四万十市 亀井雉子男

茶の花や会うて別れて老い果てし 高知市 山本 呆齋

俳誌「梨花」主宰 山本呆齋特選

豊年や無用となりし一斗枿

四万十町 中平キリン

逢いたさを明日に送りし無月かな

高知市 小島久美子

息継ぎて米寿の我も秋耕す

高知市 今田 幹雄

俳誌「游」代表 田村乙女特選

晩秋やたしかに今日はそんな雨

高知市 野田美佐子

水澄みて言葉やさしくなりにけり

四万十市 亀井しげみ

ネパールで羊飼う夢秋の雲

佐川町 味元 昭次

俳人協会高知県支部長 岡崎桜雲特選

天高し女性差配の宮普請

高知市 山本あけはる

身にしむや片方禿し妣の鋤

高知市 山本あけはる

佳き人に佳き言葉あり草の花

四万十市 亀井しげみ

俳人協会高知県支部副支部長 石坂陽太郎特選

鬼の子の身の上話聞いてをり

高知市 野田美佐子

虫鳴くやあれは古墳の相聞歌

高知市 田中 杏

水澄みて言葉やさしくなりにけり

四万十市 亀井しげみ

俳人協会高知県支部副支部長 乾真紀子特選

吊し柿我が家の色となりにけり

高知市 石坂陽太郎

芋畑に声のはじめて婦人会

高知市 前川 恵女

日曜の歩幅であるく秋日和

佐川町 味元 昭次

俳人協会高知県支部顧問 植田紀子特選

内海の水脈のあきらか鷹渡る

高知市 松林 朝蒼

野路菊や土佐の海光余すなく

高知市 近藤 勝

岩ごとに囁きのあり溪の秋

高知市 山本 呆齋

俳人協会顧問高知県支部顧問 松林朝蒼特選

豊年や無用となりし一斗枿

四万十町 中平キリン

満月や鯨のやうな巖ひとつ

四万十市 亀井雉子男

敗戦のスパイク洗ひ小鳥来る

南国市 公文 正博

俳人協会高知県支部顧問 亀井雉子男特選

谷より引き谷へもどせし落水

四万十町 中平キリン

ゆく雲にときどきゆるる糸瓜かな

高知市 山本 敏子

はちきんの厚き手のひら豊の秋

高知市 近藤 勝